

文化・芸術

「一人の二人のボク（1）」

2020年、クスノキ・彩色
（撮影：狩野博賢）

丸尾康弘（1956年）

現在、大川美術館では「丸尾康弘展 今、子どもたち」を開催中です。彫刻家・丸尾康弘氏は現在、生まれ故郷である熊本県山鹿市と桐生市にアトリエを構え制作を続けています。

丸尾氏は、今年1月に当美術館の企画展「桐生のアーティスト2020」に参加し、2月には渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館で個展「今、子どもたち」を開催しました。この個展で発表した木彫とドロインクに新作を加え、個性豊かな子どもたちの表情を桐生の地でもご覧いただけます。

新作の一つが、この作品です。よくみると、足が4本あります。「人は一人では生きていけない、いろいろな支えがあって人は立っている」という思いが込められているといえます。正面から見るとまっすぐ立っているようでも、横から見ると足をクロスさせているような、歩きだしそうな動きも感じられます。困り顔の小さな子どもですが、その視線は意外と鋭く、牙を持っており、しんの強さもつかがえます。

（池田）

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

